

社会のすべての力を合わせて
福島の子どもを守ろう！



ふくしまキッズ活動記録
2011年
冬プログラムの記録

ふくしまキッズ

2011年 冬プログラムの記録

- 目 次 -

■ 活動支援のお礼	P,1
■ 協力者協力団体一覧	P,2
■ 基本計画	P,3
■ 活動概要	P,4
■ 現場からの報告(活動プログのまとめ)	P,5
・北海道プログラム	P,5-10
・横浜・三浦プログラム	P,11-18
・愛 媛プログラム	P,18-25
■ 親書	P,26
■ お札状	P,27

- 卷末 -
ボランティアの声と、プログラムのアルバム

ご支援、ご協力をいただいた皆様へ

福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会
委員長 進士 徹

ふくしまキッズ冬の活動支援のお礼

ふくしまキッズ冬プログラムは1月8日をもって全日程終了しました。昨年の夏休みに引き続き、「ふくしまキッズ」の活動がこの冬休みにも開催出来たことは、支援を寄せていただいた皆様の温かいご理解と賛同を頂けたからで、篤くお礼を申し上げます。

今回は北海道・横浜・愛媛の3カ所での開催でした。それぞれの地域の方々が特徴を持って活動しました。

北海道=雪の体験活動・ホームステイ・地域活動

横浜=野外体験活動・共同生活・地域活動

愛媛=地域体験活動・共同生活・地域活動

子どもたちは地域の方々と貴重な時間を過ごすことで、人とのつながりの大切さを身につけることが出来ました。また放射線のことを心配しなくても食事を安心していただけることで確実に笑顔と元気を取り戻すことが出来たと確信しています。



参加した子ども達一人一人、受け地に「親書」を持って行きました。その親書というのは、福島で思うように外で遊ぶ事が出来ない、我慢の生活を送っていることをそれぞれが心に思うことを作文に書いてもらいました。親にも、子育てをしながら心の葛藤や悩みもありのまま綴ってもらいました。それを受入地に行って披露したことで、ふくしまキッズの活動の必要性を理解してもらいました。福島の子どもだからこそ伝えられるメッセージがあると思ったからです。

ある子どもの親書の文中に、「僕たちが大きくなって福島県が安全になったときに、支援を頂いた皆さんを招待したいです。是非福島に来てください」と記した子もいました。親書は今後の活動でも続けたいと思っています。

今回、実行委員会が最も悩んだのは、福島市などの冬休みが極端に短かったことです。そのため参加を断念する家庭が出て、「この冬に参加したかったけれど、次の春休みのふくしまキッズには絶対参加したい」と冬の説明会場にわざわざそれを伝えに来てくれた子どももいます。ふくしまキッズの活動がどれだけ、生きる希望になっているかという証でもあります。今回参加した子どもも、そして親御さんからも活動の継続を願う声が強く寄せられています。将来の福島県を、日本を創りあげて行くのはこの子どもたちなのです。

私たち実行委員会としてはそうした子どもたちの力となれるように、今後もそのメッセージを伝え、活動を継続していくかなければと思っています。そのためにも、この冬の活動について、しっかりととした会計報告及び活動報告を皆様に届ける責任があります。この小冊子はそのためにまとめました。

春休みに向けて、改善すべき点などを実行委員会で検討し、更にプログラムに磨きをかけて行く所存です。今後も変わらぬご支援をお願いして、福島の子ども達を見守り育てていただければと思っています。以上、委員長の皆様へのお礼のご挨拶とさせていただきます。

福島の子どもの笑顔と元気応援プログラム 「ふくしまキッズ冬プログラム」協力者協力団体一覧

主 催 福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会

委 員 長：進士徹（NPO あぶくまエヌエスネット理事長）

副委員長：吉田博彦（NPO 教育支援協会代表理事）

実行委員：宮本英樹（NPO ねおす専務理事）

安江こずゑ（NPO 教育支援協会北海道代表理事）

青野信久（子どもの絆プロジェクト）

市川 靖（NPO 教育支援協会）

監査委員：金野栄太郎（公認会計士） 立川直樹（あづさ監査法人）

支援委員：遠藤和章（北海道公民館協会事務局長）

玄侑宗久（作家・震災復興構想会議委員）

ジョン、ギャスライト（ツリークリエイミングジャパン）

白石康次郎（海洋冒険家）

田口ランディ（作家）

寺脇研（京都造形芸術大学教授）

戸塚 隆（ジャーナリスト）

中島岳志（北海道大学教授）

藤田 保（立教大学教授）

湯川れい子（音楽評論家・作詞家）

吉田研作（上智大学教授）

協力団体

NPO あぶくまエヌエスネット・NPO 教育支援協会・NPO ねおす

NPO 教育支援協会北海道・NPO スタニティ・NPO 放課後アフタースクール

NPO 夢職人・NPO オーシャンファミリー・北海道旅客鉄道株式会社

北海道・北海道教育委員会・七飯町・北海道公民館協会・北海道教育大学

横浜市・横浜子ども支援協議会・愛媛県・新居浜市・今治市・大洲市・西予市

日本財団 CANPAN センター

特別支援団体

チャリティーママ義援金プロジェクト



「ふくしまキッズー冬のプログラム」基本計画

- 本プログラムは、福島原発事故により、放射線汚染の深刻な影響を受けている福島の子どもたちに、せめて学校長期休暇の冬休みに、何の心配もなく、思いきり「子どもをやってもらう」事と同時に、子どもたちの学びと育ちを支援する教育事業を実施し、多様な体験や人とのコミュニケーションを作り出すことを目的とします。
- この事業計画に賛同する家庭の子どもたち（小学生・中学生）を対象に参加費は往復の交通費相当分のみとし（生活保護家庭は全額無償）、抽選により参加者を決定いたします。
- 本プログラム実施に関わる諸経費は、支援金の寄付を募ります。ふくしまキッズを継続的に実践することで、支援の輪を徐々に広めながら、日本に「子どもは社会で育てる」という考え方を定着させる持続的な活動へとつなげまいります。
- 事業実施に当たっては実行委員会を結成し、本事業の子どもたちの受け入れ（受入協議会）には、ふくしまキッズの活動趣旨に賛同し、協力関係をいただける受け地と協働し運営します。

ふくしまキッズ冬のプログラムの募集要項

1. 募集人数

北海道プログラム：100人 横浜プログラム：170人 愛媛プログラム：30人

2. 参加資格

福島県内に住居をもち、この事業計画に賛同する家庭の小学1年生～中学3年生の子どもたち。ただし、冬のプログラムは、受け入れ地域によって以下のように学年などに制限がありますので、ご了承願います。

北海道：小学3年生～中学3年生（幼児、障害のある児童・生徒は不可）

横 浜：小学1年生～中学3年生（兄弟での参加の場合は幼児も可、また、障害のある児童・生徒の参加も可、ただし両方とも保護者同伴での参加とする）

愛 媛：小学1年生～中学3年生の子どもたち（幼児、障害のある児童・生徒は不可）

3. 運営、主催・体制

主 催：福島の子どもを守ろうプログラム実行委員会

福島県東白川郡鮫川村大字赤坂東野字葉貫57番地

ふくしまキッズホームページ：<http://fukushima-kids.org/>

事務局：SOCC 子どもを守ろうプロジェクト協議会

札幌市中央区北6条西25丁目3-35-210 (NPO 教育支援協会北海道 内)

電話 011-643-3313

北海道 現地本部

グリーンツーリズム推進協議会 七飯町字東大294-1

横 浜 現地本部

NPO 教育支援協会 横浜市南区浦舟町3丁目46 総合福祉施設9階

愛 媛 現地本部

今治市 桜井公民館 愛媛県今治市桜井3丁目6番8号

「ふくしまキッズー冬のプログラム」の活動概要

日程	活動内容	備考				
9/15	実行委員会で冬プログラムの概要を確定（札幌市）					
10/23	冬プログラム募集開始					
10/27	「希望のキャンプ」発刊					
10/31	冬プログラム募集終了					
11/ 7	冬プログラム参加者確定（参加希望者全員収容）					
11/ 8	冬プログラムへの支援金募集開始（夏からの繰越金180万円を繰り込む）					
11/14	チャリティーママ義援金Pより支援金が贈られる					
12/10	冬プログラム参加説明会					
12/24	北海道プログラムスタート					
12/25	横浜・愛媛プログラムスタート					
12/28	Amway ONE by ONE 子ども基金より支援金が贈られる					
12/30	北海道プログラム終了、横浜プログラムBコース終了					
1/ 4	横浜プログラムCコーススタート	<table border="1" style="float: right; width: 150px;"> <tr><td>最終参加者</td></tr> <tr><td>北海道：93人</td></tr> <tr><td>横 浜：76人</td></tr> <tr><td>愛 媛：21人</td></tr> </table>	最終参加者	北海道：93人	横 浜：76人	愛 媛：21人
最終参加者						
北海道：93人						
横 浜：76人						
愛 媛：21人						
1/ 6	愛媛プログラム終了					
1/ 8	横浜プログラムA・Cコース終了					
1/23	第1回会計監査を監査委員によって行う					
2/27	決算委員会を開催し、決算を確定。春プログラム実施へ					

ふくしまキッズ冬のプログラムで生み出された関係		
支援金募金者		264 件
参加ボランティア		278 名
ホームステイ引き受け家庭		34 家庭
協力スタッフ		64 名
協力・連携団体	N P O ・ N G O	10 法人
	地域協議会・団体	29 団体
	企業	32 企業
	協会	2 団体
	大学	2 校
	財団	7 団体
	自治体	7 自治体
	その他	7 団体

冬プログラム現場からの報告(活動ブログのまとめ)

(ア) 北海道プログラム

<第一日目 12月 24日>

24日夕方、長旅で疲れた様子もありましたが、福島・郡山からやってきたみんなが無事、ネイパル森に到着！『ご苦労さま！待ってたよ～』と北海道チームは大歓迎。施設の使い方などのお話を聞いて、早速美味しいご飯をいただきまーす！！今日はX'masイヴなのでメインはチキン！なんと、デザートにはチョコケーキも。

そのあとは、体育館にて全体で仲を深める遊びをしました。やっぱり身体を動かすと自然と笑顔が溢れます。全体での遊びが終わったあとは、お風呂タイムです。『気持ち良かったあ』という、ピンク頬っぺの女の子の感想。気持ち良かったね～。

お風呂に入ってあつたまつたら、おふとんの用意をして、おやすみなさい。はじめて会ったお友達と過ごす初めての夜。どんなお話をしたのかなあ～と、考えつつみんなの寝顔を確認。安心しました。今日一日お疲れ様でした(^^)これからたくさん楽しもうね！！



<第二日目 12月 25日>

ネイパル森をスタートし、午後から大沼公園駅前にある婦人会館というところに移動。ここではふくしまキッズ冬のプログラムのウェルカム・パーティーが行われました。

七飯町の中宮町長から「冬の大沼だけがや病気をせず、元気いっぱいたくさん遊んで楽しい思い出を作ってください」というご挨拶を頂戴しました。最後は今日、出来たばかりのふくしまキッズ冬のプログラムテーマソングをみんなで歌って、素敵なパーティは幕を閉じました。

子どもたちが楽しい冬休みを過ごせるよう、改めて頑張らねばと気の引き締まる思いです。お迎えいただいたみなさま、ご協力いただいたみなさまに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



<第三日目 12月 26日>

今日は午前中に各宿泊先より婦人会館に集合して学習の時間。午後には、お待ちかねの雪遊びワンダーパークが開設です。各スタッフが創意工夫をもって取り組むフリープログ

ラム。普段生活しているチームではなく、自分がやりたいことを選択して参加できる活動です。

7時から行われた朝の集いでは、ウォーミングアップにみんなで体操をしました。体操と言っても普通のラジオ体操ではありません。ボランティアリーダーがお手本となって『安保式原始人体操』という体操をしました。

みんな初めてやってみる体操でしたが、なんだか体がとてもぽかぽかしてきて、目が覚めました。



25~27人の子どもたち、ディレクター（チーム全体のまとめ役）、アシスタントディレクター（ディレクターのサポート）、ボランティアリーダー、ボランティア（活動のサポート）でひとチームです。だんだんとチームの仲間の顔や名前も憶えはじめ、チームとしての意識が出てきているようです。子どもたちの生活面や活動面をサポートするこれらのスタッフですが、そして、この子どもたちが安心・安全・快適に遊べるようサポートしてくれる遊軍というチーム（主に食事の担当をしています）、全体のスケジュールなどを管理してくれている事務局、お手伝いができるときにボランティアできてくれる人、約150人の仲間たちと過ごす1週間です。大自然に囲まれてみんな元気いっぱいのびのびと過ごしています。

さらに、地元のコックさん、そして、なんと北海道内でも有名な農家さんたちが、食材提供だけではなく、食事作りもお手伝いしてくださいました！流山

の厨房は、まさにドリームチームです。

良い食材で丹精込めて作ったご飯の味は格別です。子どもたちの食欲はどんどん増加傾向。本当によく食べています。今までこんな食欲、見たことありません。大鍋いっぱい作った料理も、あつという間にスッカラカン。おひつもすぐにカラになります。

お手伝いいただいたコツクさん、農家さん

- バルト 藤田さん
- シゼンノタメニイキルコト 曽我井さん
- 秀明ナチュラルファーム北海道 富樫さん



<第四日目 12月27日>

ふくしまキッズ冬のプログラム in 北海道で行われるすべての活動において、私たちがテーマとして掲げていること、それは【リフレッシュ】です。子どもたちが身も心もリラックス・リフレッシュする環境を作るために、スタッフ一丸となってさまざまな活動を行っています。その中でも、子どもたちが一番楽しみにしていたプログラムが、このリフレッシュプログラムではないでしょうか。26日と27日の午後から、多彩な技を持つねおす&

大沼ふるさとの森自然学校のディレクター陣により、創意工夫をこらした6~8つのプログラムが展開されました。

子どもたちは自分の興味・関心によって参加する「エントリー方式」です。自分がやりたいことを自分で選べますし、途中で他の活動にもお邪魔できます（一部除く）。「どれをやってもいい」「どれもやらなくてもいい」「どれもやっていい」。時間の許す限り野外でとことん遊び尽くせる解放の時間です。それぞれのプログラムに担当者の想いと熱があり、子どもたちの楽しそうな笑い声が響き続けた2日間の活動でした。

たくさん遊び、たくさん学び、たくさん笑い、たくさん食べて、たくさん眠る。こうした時間を過ごすことによって、子どもたちの心と体のリフレッシュにつながってくれることを願います。

そのプログラムの一つを紹介すると、『しゅんちゃんと一緒に日暮山に登ろう』です。参加者は高学年の女の子がほとんどでしたが、昨日も参加した男の子が「楽しそうだから今日も参加する！」といって参加していました。山登りしながら、キツネやタヌキ、ウサギなどの足跡を発見。『ウサギの足跡ってこんな不思議な形をしているんだあ～』と子どもたちは感動していました。山を登ること40分。頂上では大沼の絶景を見ながら大沼名物の美味しい大沼団子とココアをいただきました。とてもほっこりした気持ちになりました。



<第五日目 12月 28日>

昨日より幾分、寒い朝を迎えました。子どもたちはちゃんと寝れたかな？ 寒くなかったかしら？ と顔を合わせる子みんなに「よく寝れた？ 寒くなかった？」と聞いて歩いてみましたが、「全然！ っていうか、むしろ暑かった！」という子たちばかり。とてもたくましいです。

今日はみんなが楽しみにしていたホームステイ（個人のお宅での民泊）プログラムの日です。朝ご飯を食べたら荷物を片付けて、掃除をして、ホームステイ出発に向けて準備をします。

ホームステイのご家庭との顔合わせ、みんな少し緊張していますが、さてどうなりましたか。



<第六日目 12月 29日>

各ご家庭で一夜を過ごし帰ってきた子どもたち。みんなの顔を見るとリラックスできて楽しかった！ということがよく伝わってきました。民泊を体験した子どもたちがどんな様子で過ごしていたか、子どもたちにインタビューしてみました。

ご飯は各ご家庭さまざま、手作りのピザを食べた！とかお昼ご飯はラーメンだった！という声が。中にはケーキと一緒に作ったという子もいました。生活の面では、外で雪遊びをしたり温泉に行ったりしたそうです。松前方面に行った子は「松前温泉は熱かった！」と一言。子どもたちが携えていった感謝状と面白賞状をホストファミリーの方と交換したり、一緒に撮った写真をラミネートして持たせてくださったご家庭もあったそうです。

何がいちばんおもしろかった？と尋ねると「犬と一緒に散歩に行ったこと」とか「おうちのお子さんと一緒にウノで遊んだこと」とか。（でも、一番多かったのは「テレビが見れたこと」だったかもしれません）

帰ってくるなり「ああ、帰ってきたくなかった…」と肩を落とす子どもがいたくらい民泊という経験は子どもたちにとって、とてもエキサイティングな体験だったようです。

一緒に食事をしながら子どもたちの様子をおうかがいしたのですが、どの方とお話しさせていただいても、かけていただいた言葉は「本当に楽しかったです。また次の機会にもぜひお手伝いさせてください」とのお言葉でした。「民泊を受け入れて、こちらのほうが学ばせてもらうことがたくさんありました。子どもたちもみんな良い子で、本当に楽しい時間を過ごさせていただきました」とおっしゃってくださった方。「私があと20年、生きていらしたらまたこの子にお会いしたい。どんな青年になっているのか、成長した彼らに私は会いたいと思いました」とおっしゃってくださった方。いただいたどの言葉にも子どもたちへの愛情がこもっていて、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

こうした活動は地域の方々のご理解・ご協力なくしては成立いたしません。その中でこのような温かいお言葉をかけていただきましたこと、本当に心強く思います。子どもたちを受け入れていただいたことに改めて心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。そして、またこれからもどうぞよろしくお願ひいたします。



交流会も終盤。そろそろお別れの時間となつたとき、それまで元気に話をしていた子どもたちが数人、ぽろぽろと涙をこぼしあはじめました。お世話になったホストファミリーの方との別れが寂しくて溢れた涙でした。「また必ず遊びにいでね。今度はお父さんやお母さん、家族みんな連れてきていいからね」とやさしい言葉をかけていただいたこと、子どもたちは忘れないと思います。

民泊から帰った子どもたちは、その後、婦人会館という施設へ移動しふくしまキッズ交流忘年会に向かいました。また来年もきっとふくしまキッズは続していくので、今日はお別れ会ではなく忘年会も兼ねた交流会という形にしました。このふくしまキッズ冬プログラムの総括・プロデューサーである NPO 法人ねおすの上田より開会のあいさつがありました。その中で、ご協力をいただいたすべてのみなさまへの感謝を改めてお伝えさせていただきました。

<第7日目 12月30日>

出立のときを迎えました。各チームとも見送りの時には子どもたちは涙の別れとなりました。高学年にもなると、この電車に乗って移動をしていくとキャンプという非日常から、それまで生きてきた日常へと戻っていくことがわかつてきます。色々な想い・感情が涙となって溢れてきたのでしょうか。



<北海道>お礼とご挨拶

ふくしまキッズ北海道プログラムの参加者・保護者の皆様、支援いただいた皆様へ総括責任者の上田です。

子どもたちが帰路につく朝、七飯町大沼・流山温泉はずいぶん冷え込みました。

マイナス 13 度です。天気予報は荒れる予想だったのですが、大沼・流山は快晴です。それは美しい駒ヶ岳の雄大な景色が子どもたちの出立を見守ってくれていました。

このたびは、ふくしまキッズ北海道の受け入れに参加いただき、本当にありがとうございました。私たちの作る受け入れ体制や仕組みに対して理解と信頼をして頂き、たいせつなお子様を参加させてくださった保護者の皆様に、深く敬意を表します。

そして、そんな子どもたちの活動を様々な形で支援してくださいました方々にも深



く感謝申し上げます。皆様の支援があったからこそ、子どもたちは大沼という場所でリラックスすることができた、ということは間違いない事実であります。おかげで、子どもたちは健康に安全に、そして楽しく過ごすことができました。

一方、私どもの技量が足りず、怪我をしてしまったり、具合が悪くなってしまったりする子がいました。できるだけ迅速に、可能な限りの対応はさせていただいたのですが、結果として子どもたちには残念な思いをさせてしまったことについては本当に申し訳なく思っております。この場をお借りして、お詫び申し上げます。

いずれにいたしましても、多くの皆様の special thanks & support があつたからこそ、はじけるような笑顔がブログにUPすることができたと思っております。子どもたちとの活動を共にするために集まったボランティアは自分自身も「学ぶ」「気づく」という大きな「知的なおみやげ」を持って帰っていました。

子どもたちにとっても、私たち関わる大人にとっても、有意義な時間となってくれました。あるホストファミリーの方・・・おばあちゃんですが、「わたしはあと20年生きたいそして、この子たちの20年後を見たい」とおっしゃったそうです。そう、ふくしまキッズの子どもたちは、北海道の人々をより前向きにしてくれているのです！

そういう意味では、ふくしまキッズというこの取り組み・・・、そのきっかけはとても重たいものであったかもしれません、これから日本を動かしていく子ども、そして大人たちを作り出すきっかけになるのかもしれませんと感じているところです。

このふくしまキッズの受け入れ活動については、今後も継続できるよう、この冬の間も現地でずっと話し合っているところです。この北海道という大地を活かせる活動はいかなるものなのか。ふくしまキッズにとって、北海道はどうあるべきか。夏の活動、そしてこの冬の活動を通して得られた経験を生かし、子どもたちのリフレッシュが促進され、さらにエキサイティングな、エネルギーな活動ができるよう頑張っていこうと思います。今後もご理解とご協力いただけますようお願い申し上げます。

ふくしまキッズに関わる皆様にとって
2012年が少しでもよい年になりますように。

平成21年12月30日

ふくしまキッズ北海道プログラム

総括責任者

NPO法人ねおす 上田 融



(イ) 横浜・三浦プログラム

<第一日目 12月 25日>



極寒の福島と郡山から、2台のバスで55人の子どもたちが横浜に向かいました。途中、佐野SAで昼食をとり、15時には横浜山下公園の県民ホールにつきました。途中、一人の女の子が車酔いで気分を悪くした以外は全員元気に横浜に到着しました。

県民ホールでは、横浜市の山田副市長の歓迎のあいさつの後、関係してくれる団体の代表者と多くのボランティアの方々に顔合わせをして、いよいよ横浜プログラムがスタートです。

バスでみなと未来地区を後にして、28日までの活動サイトのある自然公園に到着し、部屋割の後、夕食となりました。夕食はクリスマスということもあって、鳥の照り焼きとサラダとスープ、そしてケーキがつきました。

夕食の後、長いバスの移動で、疲れている子供も多かったので、すぐにお風呂に入って、就寝としました。寝るときに、ある子どもが「明日の朝はサンタクロース来ているかな?」と隣の子どもに訪ねた時、「福島からここまで来ないだろう」という会話をしていたそうです。

あわてたそのスタッフが「大変だ、プレゼントを用意しない」と思ったそうですが、別のスタッフが「あれっ? サンタクロースは24日の夜では」と言って、そのあわてたスタッフは「どうしようか」と思ったそうですが、とりあえず、サンタはもう帰ってしまったということで…。なんとか初日は無事に終了です。



<第二日目 12月 26日>

今朝は学習組と外で遊び組に分けて活動をスタートさせました。本来午前中は学習タイムで外では遊ばないので、顔に「外で暴れたい」という子供たちも多く、外遊び組を作りました。

午後にはフィールドアスレチックに挑戦することから、ドッジボール、鬼ごっこ、森探検など施設内での遊び組と、町探検でみなと未来に行ってカップヌードルミュージアムに行く組や中華街に行く組に分かれて活動しました。年末のカップヌードルミュージアムは整理券を配布しているぐらいの混雑で、これを避けて近くのコスモワールドという遊園地で遊ぶことにしました。

食事の方は北海道の方々からお送りいただいたジャガイモやバター、牛乳を子どもたちが本当に喜んで食べてくれました。支援いただいた方々へ感謝です。こうした方々からの



お手紙も食堂に張っており、みんな読んでくれていますが、字が難しいので、説明付きで。北海道からお送りいただいた牛乳を一人で三杯おかわりした子どももあり、あっという間になくなつていきそうですが、「心配ない牛乳だよ」と隣の子どもに話しかける会話がズキンッと来ます。

<第三日目 12月 27日>

今朝は朝から勉強するグループと、午後のがしや楽校で駄菓子を買えるエコマネーを稼ぐために掃除をやるグループに分かれて活動を開始しました。今朝から体調が悪い子どももいましたので、エンジン全開の子どもが多く、ボランティアの方々は大変でした。どうしても集団になじめない子どももあり、マンツーマン対応をせざるを得ない子供もあり、なんとか乗り切ったという感じです。

午後からはJAXSAを訪問する子どもたちと、だがしや楽校に参加する子どもに分かれ、JAXSAを訪問する外出組はちょっと時間が遅れたため、夕食にはちょっと遅れて帰ってきました。だがしや楽校参加組は、ツリークライミング、凧作り、キャンドル作り、色々スポーツという活動を多くのNPOやボランティアの方が用意してくれましたので、それぞれに参加して、エコマネーを稼ぎ、駄菓子を買って食べました。写真はツリークライミングの様子です。



<第四日目 12月 28日>



横浜はとてもいい天気で三浦に向かう前によこはまみらい地域を散策しました。そこでは「自由昼食」として、チームの仲間で食べたいものを決めて、みなとみらい地域で好きなものを食べました。中華街まで足を伸ばしたチームもありましたが、一番多かったのが、「マック」という何だか悲しい結果に。

みなとみらい地域を後にして、今度は鎌倉での散策を。三浦の活動を担当するリーダーさんたちと無時合流して、鎌倉の小町通りでおせんべいなど食べ歩き。銘菓のお菓子も購入。何気に観光地を満喫できました。



<第五日目 12月 29日>

三浦サイトは晴天です！海岸からは富士山が眺望できるのですが、今日は残念ながらウッスラ。朝からみんな元気に山歩きのハイキングに出発しました。「三ヶ岡ハイキング」です。

”おか”といつても急な坂道がけっこうあり、途中リタイアする子もいるかな？
と心配しましたが、全員頂上まで登りました！

森のなかで遊んだ後は、海辺へ移動。いろんな生きものを観察したり、漂着物を拾ったり。いろんな宝物を見つけました。三浦サイトではA班とB班の2チームに分かれて活動。両チームとも無事、ご飯を食べて就寝準備に入りました。体調を崩す子もなく、みんな元気デス。



<第六日目 12月 30日>

三浦サイトを午前中にスタートし、横浜で昼食をとった後、福島に向けてふくしまキッズ横浜プログラムのAコースは帰っていました。17時20分に郡山のバスが到着し、18時20分に福島のバスが到着しました。これでプログラムの前半戦が無事終了しました。当初は、年末の道路の渋滞が予想され、送迎引率スタッフは深夜到着の体制を覚悟し、食料などを積み込んでいきましたが、それも杞憂となりました。まずはこの前半戦、一人の事故もなく、体調を崩す子どももなく、無事に保護者の皆さんに大切な子どもたちをお返しできることで、ホッとしています。

横浜をスタートするときに、数人の子どもが『お礼の手紙』を最後に書いてくれました。その一人の子どもの手紙の一部をご紹介して、前半戦の締めくくりとしておきます。



支援をしていただいた皆さんへ

「私はあの3月11日に、大切な人を失いました。私はすごく悲しくて、ずっと泣いていました。でも、夏の北海道のプログラムに参加して、みんなが支えてくれているんだと改めて感じました。そして、今回またふくしまキッズに応募しました。行けるとわかったときは、二度も同じプログラムに参加できることがすごくうれしくて、ワクワクしました。この喜びもワクワクも、支えてくれる人がいるからだと思います。本当に×2、心からありがとうございました。」

<第七日目 1月 4日>

横浜市金沢区野島研修センターに、16：00過ぎに元気な「ふくしまキッズ」総勢41名が到着しました。Aコースの七日目とCコースの1日目がスタートしました。研修センターの集会場で、施設の使い方や注意点などを聞いて、先に到着していた横浜の子どもたちと対面しました。

おいしい食事を（今日のメニューはおでん&シューマイ・・・）食べ、順番にお風呂に入って、明日からのこともあります。今日は早めに就寝しました。



<第八日目 1月 5日>

今日は午前中の学習を早めに切り上げ、10時からは我々の仲間の大学の先生が子どもたちのために餅つき大会を企画してくれ、8kgのもち米をつきあげて、昼ごはんとして食べましたが、ボランティアやスタッフの口には入らないぐらい、一気に平らげてしまいました。「福島の子供は餅が好き？」ということがよくわかりました。

午後は海洋冒険家 白石康次郎さんによる世界一周ヨットレースの様子のお話と、それを聞いて子どもたちからの質問に白石康次郎さんから応えてもらいました。

白石康次郎さんは5オーシャンズというレースで世界第2位になった方です。さらに外で実際のロープワークを学び、みんなで訓練しました。みんな真剣に取り組んでいました。

今はチームごと、入浴しています。21：00 就寝厳守でみんなキビキビ動いています。なぜか？それは明日を楽しみにしているからです。そう、明日は「八景島シーパラダイス」で一日遊ぶからです。子どもは現金なのです。

今日も一日、元気な子どもたちの声が響き渡った野島研修センターでしたが、体調を崩した子どもが一人、便通がないためにおなかが痛くなっているようで、食欲があるため、経過を見て見たいと思います。風呂で足のつま先を切った子どもが一人、ちょっとした紺創膏で対応しました。入り口の自動扉に頭をぶつけた少年、オデコが出来ました。こうして一日の出来事を記載してみると、一日中小さな色々な出来事があります。

多くの子どもと一緒に生活することは、こういう時間を過ごしながら、「どうか無事に一日が終わりますように」と神に願うことかもしれません。一日の様子を少し詳細に記載して見ます。



昨日の夜の就寝が遅い子どもがいたため、朝が少し遅い起床となり、子どもたちは眼鏡で宿泊棟の前に出てきました。もちろん、起床30分以上も前に起きてきている子どももあり、子どもの集団生活は、この差が問題となります。「人に合わせられない子ども」にとってはこのことは結構つらいようです。しかし、社会で生きていくということはこうしたことに順応することですから、付き合われます。

軽い体操の後、朝日を浴びながら散歩し、みんなで朝日に向かって自然と手を合わせました。一人の子どもが「何だか気持ち良い」と言っていましたが、こうしたことが自然の道理なのでしょう。

朝ごはんは三種類のパンとトマト味のソーセージスープとミルクです。このミルクもそうですが、今回の横浜プログラムでは保護者の皆さんから心配が寄せられたため、水も食材も多くは北海道から寄付していただきたり、取り寄せました。また、横浜中央卸売市場の仲間とも相談して、基準値内食材ではなく、不検出の食材を購入するようにしました。今回の一番の苦労はここにあったのかもしれません。

そしてその食材を地域の「おばさん、お姉さんボランティア」の皆さんと、毎日、朝・昼・晩と調理和していただきました。栄養士の資格をもたれているもいらっしゃり、本当に助かりました。

食事の後、自由時間として、部屋で過ごしていましたが、やたらに備え付けの自動販売機で飲み物を買うのが気になりました。やはり館内が暖房で乾燥しているため、のどが渴くでしょうが、水とお茶を用意してあるのですが、甘いものをどうしてもほしがるようです。私もいつも鬼となって怒るわけにも行きませんので、「飲みすぎるなよ」と声はかけておりますが、心配事の一つです。

午前中は、学習する子どもが半分、外でのオリエンテーリングに参加する子どもが半分。勉強が気になる子どもが多いのは仕方ないことかもしれません。学習時間中は「したくない子どもはいいよ」としているせいもあり、静かなものでした。今日は私立学校の先生もボランティアで参加されていたため、良い時間になったようです。



<第九日目 1月 6日>

今日も元気な子どもたちの声でいっぱいの野島サイトでした。便通がないためにおなかが痛くなった子が2名いましたが、食欲はあり、「八景島シーパラダイス」への外出前のトイレでやっとスッキリしてでかけることができました。

この日の朝食は横浜から参加している子どもたちが帰宅するため、一緒に摂る最後の食事でした。横浜から参加している子どもの代表から「福島に戻って頑張ってくれているのを、横浜で応援しています。私たちも横浜で頑張ります。また、会えると嬉しいです！」

という力強いエールをもらいました。それに対してふくしまキッズの子どもが「ありがとうございます！それぞれの場所で、目標ややりたいことに向かって頑張っていきましょう。会えるのを楽しみにしています。」という返事をしてくれました。同じ場所で一時期でも一緒に生活した子どもたちが、お互いを想い合う場面を見せてもらいました。

その後は、出かける支度をして、一路「八景島シーパラダイス」へ向かいました。9:00過ぎに野島サイトを出発して、シーサイドラインに乗車。3駅で「八景島駅」へ到着しました。今日は終日、グループでのシーパラダイス内自由行動。

5日の夜様々話し合って、乗るものや見るものを考えました。絶叫マシンに何度も乗りたい子どもも、逆に絶対に絶叫マシンに乗りたくない子どもも、乗り物よりお土産に向かう子

ども・・・と色々な考えのある中で、10:00に活動をスタートしました。17:00までの自由行動です。水族館での「白イルカ」のショーやフリーフォール、ジェットコースター、バイキング etc 同じものに何度も TRY する子どもも、できるだけ多くの乗り物に乗りたい子どももいました。

お土産も買って、全員が揃ったのは 17:10. まだまだ遊び足りないくらいで、絶叫マシンに 9 回乗ったという強者もいました。急ぎ足で、野島サイトに戻り、夕食を摂りました。入浴のあとは 1 月 7 日の活動打ち合わせ。1 月 6 日の夜は、21:00 就寝時に、すぐ寝てしまう子どもばかりでした。



<第十日目 1月 7 日>

1月 7 日は、自分たちで決めた色々な体験が満載の 1 日でした。午前中は学習活動の他、今日の夕方からオープンする「駄菓子屋」で買い物をするために、エコマネーを得られるような活動にしっかり取り組みました。

お世話になっている宿泊施設がある野島公園はとても広い公園ですが、みんなで手袋をして、ゴミ拾いをしました。さらに、その集めたゴミをみんなで分別しました。



10:00～は「哲学カフェ」という耳慣れないワークショップもしました。テーマは”きれいなもの”。難しい話の時もありましたが、子どもたちは質問されたことにはまっすぐに答えていました。

昼食の後、いよいよ午後のイベントに出発しました。シーサイドラインに乗って、2駅先の横浜市立文庫小学校に行きました。斎木校長先生に体育館に案内されると、そこに横浜DeNAベイスターズ（旧：横浜ベイスターズ）の背番号18「ハマの番長」三浦選手と、日本人女子初のプロ野球選手 吉田えり選手が来てくれました。

福島の子どもたちとキャッチボールをして、その後車座になって質問を受け付けました。最後に2人からエールを送ってもらいました。その会が終わった後、お2人は「今日、福島の子どもたちに渡したい」と言って、校長室で2時間半ほど全員分のサインボールを書いていってくれました。

「福島にいるみんなに負けないよう、それ以上に頑張る」という三浦選手の言葉がとても印象的で、強い意志を感じました。

その後、野島研修センターに帰ってみると「だがしや楽校(がっこう)」のスタートです。東京・杉並や横浜近隣の市民活動をされている方が色々な活動メニューを用意してくれました。



<第十一日目 1月8日>

13時横浜での全ての活動を終了し、修了書を受け取り、子どもたちは福島へ向けて旅立ちました。ボランティアもスタッフも子どもたちもみんな大泣きで、スタッフ一同写真を撮ることも忘れてしまいました。（ごめんなさい）子どもたちは心にたくさんの思い出を抱え帰って行きました！

横浜プログラムを支援していただいたボランティアの皆さん本当にありがとうございました。私たち大人も多くの思い出と勇気を子どもたちからもらうことができ感激です。ありがとうございました。



<余談：横浜でのお正月>

さて、横浜プログラムでは「お正月」に横浜に残っている子どもたちと箱根駅伝の観戦に行きました。



した。今年は福島出身の柏原選手が「山登りの」五区を走りますから、どうしても見たいという声に応えて、箱根町の役場の皆さんにご協力いただき、箱根湯本からの無料の切符をご用意いただき、箱根の山に登り柏原選手を応援してきました。

右の写真が観戦風景ですが、ものすごい人出に驚きながらも、子どもたちは福島出身の柏原選手を必死に応援しました。

その後、箱根神社に初詣の参拝をして、帰つてきました。



(ウ) 愛媛プログラム <第一日目 12月 25日>

子ども達は、福島と郡山にそれぞれが集合し、羽田空港に向かいました。はじめて飛行機に乗る子もいました。少々興奮気味で、飛行機が離陸するときに体がシートにくっつくような感覚に「きやー」「気持ちいい・・・」と大騒ぎです。

そして、順調に松山空港に到着。現地の皆さんのがロビーに横断幕を作り、温かく子どもたちが来ることを待っていてくれたのです。愛媛の方々が心からの受け入れ体制を構築していただき、具現化した今回のプログラムですから、空港で手作りの横断幕を見たときの子どもたちの気持ちはどうだったでしょう。

愛媛では今回のプログラムの運営のために「子どもの絆プロジェクト」を立ち上げ、公民館職員の有志の方達が主体となって、そして地域の人たちや、愛媛大学の学生達と協力して受け入れが始まった愛媛プログラムです。子供たちにとって最高の冬休みになると、確信しました。

松山空港からみんなを乗せて新居浜に向かいました。子ども達は少し疲れもあるでしょうが、早々の歓迎会にびっくり。アフリカの民族音楽の団体と、地元の子ども達が来てくれていました。子供同士の交流が育っていけばどんなに素敵なことでしょうか！！



<第二日目 12月 26日>

ふくしまキッズ愛媛プログラム2日目です。新居浜の気温は少し低かったのですが、福島ほどではありません。この日の朝食は、地元のお母さん達が作ってくれました。感謝です。



二日目の行動

午前：自由（勉強・スポーツ）・公園で思い切り体を動かす。

午後：回転すし・コカコーラ工場見学・銅の折鶴

夜：夕食—結婚式場でフルコース料理・地域の方達と交流会



子ども達も元気のエンジンがかかってきたように感じます。それは、福島で遊びが出来ない分の充電をしているのだと思います。それに愛媛大学の学生もそれに付き合ってくれます。若いってすばらしいです。また昨日取材に来ていた「愛媛新聞」に今回のプログラムが大きく掲載されました。福島の子どもが愛媛に来たことはニュースになります。



この日の食事は豪華な料理です。子どもたちのはしゃぎぶりは大変です。地域の方との交流会では子どもたちが福島を出発する前に書いてきた「親書」が子どもたちから読み上げられ、地域の方は福島の置かれている現状をよく理解していただいたようでした。新居浜市長さんや、議員さんもその親書を読んでくれました。「ジーンと伝わるものがありますね。」と話しておられました。



子ども達は親書を持ってきていたこと、それを発表することで、自分の言葉で伝えることが出来るわけです。交流会はこれから先の移動先でも行われますので、この親書が役立っています。

この日1日で学生たちと子ども達の心がつながってきたように思います。また明日が楽しみです。

<第三日目 12月 27日>

愛媛は三日目も晴れています。今日の予定は以下のようです。

午前：泉川公民館移動—別子山公民館—昼食

午後：交流会—ゆらぎの森（宿舎）移動—木工クラフト—夕食—入浴・就寝

次に向かった先は別子山という地域です。車に乗って約2時間。着くと地域の人たちのほとんどがお迎えをしてくれました。テレビ局も3社。新聞社も取材に来ていました。

歓迎式典では、地域の子ども達6人が元気良く、地元に伝わる別子太鼓を披露してくれました。

次いで「餅つき」を交代でやらせてもらいました。女の子達はつきたてのお餅を教わりながら丸めました。あんこもち・きな粉もち・・どれも美味しかったです。そして、特別に用意してくれていた、しし鍋を頂きました。体もぽかぽか温まり幸せ一杯です。

この別子山の地域に住む人は少なく、住民の方は200人に満たないと言うのですが、皆さん的心は1人で1000人前の温かさを感じました。



昼食の後は、交流のドッジボールを楽しみました。進行をしてくれた先生が、楽しくゲームを交えて進めてくれました。みんなの笑顔が最高でした。このような地域に子ども達が来れたのも何かの縁だと思います。

別子山の子ども達が歌ってくれた歌詞の中に「一つ一つが心の宝物」という言葉がありました。まさに互いの子ども達の心に大切な宝物がひとつ出来た気がします。

<第四日目 12月 28日>

四日目の予定は、ゆらぎの森—今治タオル美術館—桜井公民館—温水プール、そして夕食は今治ラーメン、夜は瀬戸内に浮かぶ大三島のしまなみふれあい交流館でお泊りです。子ども達は体調を崩すことなく元気です。

別子山から移動するときに、地域の人達がお見送りをしてくれました。また来年も着てくださいと、優しく声をかけてくれました。本当に心が温かく、またこの地を訪ねて見たい気持ちになりました。

バスから皆さんにさようならをして、今治市のタオル美術館を見学。ムーミンの作品が展示されていて素敵に飾ってありました。マルヘンの世界でした。

午後からは桜井公民館で昼食歓迎会。今治市長さん、教育長さんもわざわざ駆けつけてくれました。子ども達の親書を読み上げて、福島の理解を深めてもらいました。昼食は、地域のお母さん達の手作りでした。

学生ボランティアもここで交代でした。子ども達は別れがつらいのです。涙を流す子どももいました。

昼食後はクアハウス今治の温水プールと、湯ノ浦ハイツの芝滑りやボブスレーで身体を動かしました。

そして、夕食は地元の普及委員会の協力で今治ラーメンのセットを食べて、この日に泊まる瀬戸内に浮かぶ大三島のしまなみふれあい交流館に着きました。ここは廃校になった後を宿泊できるようにして3段ベットと畳のお部屋になっていました。子ども達は、この日は移動や学生ボランティアが交代したり、出会いや別れがたくさんありましたが、早く休んで次の日に備えました。

<第五日目 12月 29日>

五日目も子ども達は幸せな、素敵な1日を送ることが出来ました。

午前：石割り体験

昼食・郷土料理「さざえ飯、タコ&イカ天ぷら・鯛の酢の物」

午後：みかん狩り・サプライズ：西武ライオンズの・・・

夜：豪快 BBQ フリータイム 散髪

愛媛は五日目も快晴で、天気にも恵まれています。学生ボランティアが交代して少々ぎこちなさもありますが、一生懸命やっています。さて、午前の石割体験。これは何をするのかと思いきや、本当に石割



りでした。石に穴を空け、みんなでハンマーで叩き、みんなの力で12トンの大石が割れたのです。

午後は、地域のお母さん達が、郷土料理を出してくれました。普段おかわりをしない子もおかわりをするくらい美味しかったです。

続いて、島を移動してみかん狩りに。とても甘い甘いみかんでした。みんな大満足でした。

宿舎のある、しまなみふれあい交流館に戻ると、そこにはなんとプロ野球西武ライオンズの熊代聖人選手が待っていました。熊代選手は、今治西高校時代大活躍した選手で、今は西部ライオンズの外野手としてこれまた活躍している選手です。

子供たちに優しく、「私達選手も東日本大震災で何が出来るか・・・と考えながら、元気を出してもらえるように野球を通じて応援したいです。」とさわやかで、しかも元気の出るエールを子供たちに送ってくれました。そして、子ども全員と学生ボランティアにもサインをくれました。

夜のBBQも豪快でした。食後には、美容師のボランティアの方が、子ども達の髪を整髪していただき、リフレッシュしました。今日も愛媛の多くの方々に優しくつづまれた1日でした。

子ども達の中には、愛媛の言葉がうつった子もいます。「・・・・けん。」と語尾に「けん」が着きます。福島であれば「だっぱい」と同じことだと思うのです。



<第六日目 12月30日>

六日目も豪華な食の愛媛コースと言っても良いかも知れないくらい、食べ物が美味しい一日でした。子どもたちも幸せをたくさん感じています。



午前：お魚市場見学・宿舎周辺での活動

午後：讃岐うどん・大三島漁協見学・今治西野球部と餅つき・お魚料理教室

夜：豪華郷土料理夕食・入浴

六日目は選択しての自由行動を中心に活動しました。午前には、漁師の朝市を見学に行き、大タコに驚いていました。

宿舎があるしまなみふれあい交流館には、大きな楠木があります。その前で、全員で写真を撮りました。そして、近くの海岸に・・・。海が見えると走り出し、靴を脱いで海に足をつけました。

昼食には、隣の香川県の讃岐うどん体験で、ぶっかけうどん、窯たまを選んでもらい、ネギはハサミで切ってトッピングをしてもらいました。



午後からは、大三島の漁協にある水槽を見学に行き、鯛やサザエを頂きました。近くで釣りをしている地元の方を見つけ、釣りもさせてもらいました。

今治西高校野球部と大三島高校野球部の皆さんが午後來てくれて、子ども達と一緒に餅つきをやってくれました。餅つきの後は、グラウンドでサッカーをしたりと遊んだようです。

と言うわけで、大満足の愛媛コースでした。七日目はいよいよ家の人と合流します。楽しいお正月を愛媛で過ごしてほしいです。

<第七日目 12月 31日>

七日目は大三島に3泊した「しまなみふれあい交流館」にお別れして、夜には家族と久しぶりにご対面の日です。そして関わってくれた愛媛大学の学生とのお別れ。そのためにもきちんと共有した時間を大切にしたいと思いました。



午前：部屋の清掃、荷物整理。外でレクゲーム。今までの振り返り。

午後：多々羅道の駅昼食「B級グルメの焼豚玉子飯。大三島ソースオムソバ」。

愛媛大学のボランティア学生とお別れして、久しぶりの親子ご対面ですから、学生たちとの全体の振り返りの時間を作りました。そんな時間をふくしまキッズでは大切にしたいと思うのです。

この学生たちは福島県の子ども達のために、自分の時間を割いて関わってくれた勇士です。本当に感謝です。

この振り返りの時間は良かったです。学生たちもどんな想いで、ふくしまキッズのボランティアに志願してくれたのか。そして子ども達は、福島で原発事故後で遊べないかかったこと、学生が関わってくれたことで楽しかったことなど伝えました。終わって、心と心が一つになったような気がしました。

学生にとってもこの4日間は良い時間だったと思いました。楠木の前でやりましたが、やさしく楠木も見えていたと思います。



そして、家族とのご対面の時間です。松山空港に着くとすでに到着していた家族も。お父さん、お母さんはドキドキしながら、わが子が歓声を上げることをイメージしていたようですが、子どもは・・・・「あっさり」でした。まあ、子どもはたいしたものです。

でも、短い間でしたが、お父さんもお母さんも子どもたちの成長の様子をしっかりと確認できたようです。そして、子ども達からは愛媛の人たちが優しく暖かく迎えてくれたことに感謝の気持ちでいっぱいの言葉が出ていました。きっとこの夜は、家族でたくさんのお話が飛び交ったことでしょう。

<第八日目 1月 3日>

八日目からまた子ども達がお父さん、お母さんと分かれて集合し、愛媛プログラムもいよいよ最終章のステージになりました。お正月休みで、合流してくれた親御さんたちもリラックスしていただけたようで、この企画は実に目的を得た内容で進められていることを感じました。

そして、愛媛大学の新しい顔ぶれの学生達がボランティアとして集合してくれました。みんな感じの良い学生です。子ども達と接してまた心の交流を強いものにして欲しいと思いました。

今日は一足先に合流した子ども達と「坊ちゃん劇場」で観劇をしました。とっても良かったです。感動でした。演題は「誓いのコイン」。この劇のストーリーがふくしまキッズの活動とダブって感じられました。愛媛の人たちが優しくふくしまキッズを迎えてくれること、その子どもの絆プロジェクトを立ち上げてくれた公民館スタッフの方々の想い、そんな愛媛と福島の繋がり、とにかく良かったです。

全員が集合した後、隣の施設で夕食と温泉に入り、今日からの宿泊先は「国立大洲青少年の家」です。本当は大洲青少年の家は1月4日からの営業なのですが、がなんと特別に3日に開けてくれました。福島の子どもが来るならばという所長さんの計らいで実現しました。ありがたいことです。

<第九日目 1月 4日>

午前：室内レク・学習・フリータイム

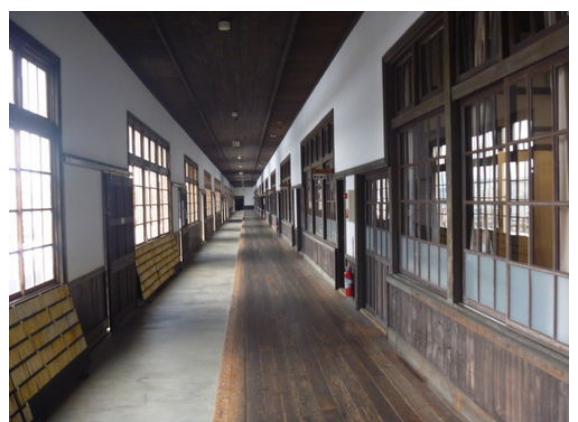
午後：Z-1 グランプリ、石の採集

夜：星空観察・読み聞かせ

九日目から後半のプログラムが本格的に始動します。その最初は西予市に移動し「Z-1 グランプリ」、ご存知ですか？

古い学校を移設した建物なのですが、この施設内の109mの長い廊下を雑巾がけして、そのタイムを競うと言うものです。以前テレビでも紹介されたことがあるので、すでにご存知かと思います。この競技は女の子が強かったです。子どもの世界でも女性上位なのでしょうか・・・。

確かに昔の小学校はすべて木造校舎でした。廊下も雑巾がけでした。子どもが掃除当番で、担当



する場所が違っていました。低学年の教室には、上級生が掃除の応援に行ったりして、上下関係も子どもの世界でもきちんとありました。学校も環境が良くなつて、雑巾がけは無くなりつつあるでしょうね。雑巾が絞れないと言う子も居ると聞きます。簡単・便利にということから、子ども達は生きるための術を削られたように感じます。

でも、ふくしまキッズでの体験活動を重ねてゆくうちに、子どもに真の生き抜く力が宿っていくのではと思っています。子供たちにやればできるという自信を持って欲しいです。

<第十日目 1月 5日>

午前：朝食後、整理整頓、勉強、フリータイム、ストーンアート

午後：昼食後、休養タイム・肱北公民館若宮分館移動・地元郷土料理「芋炊き料理」共同自炊。ラストコンサート

12泊13日の愛媛コースのラストの日です。子ども達はみんな元気です。明日はいよいよ福島に戻ります。振り返ってみると実に早かったです。そして、愛媛でもらった元気を、福島の放射線を撥ね退けるくらい充電しました。

予定されていたプログラムも子ども達の疲労度を考慮して、軽減しました。カルタ取り・早朝ウォークもなしにしました。その中で、子供たちに伝えたことは、愛媛での活動は実質今日が最後になるので、先月25日から今日までのことを各自振り返りながら、今日1日大切に過ごそうということでした。

子ども達は、学生リーダーと共にラストの楽しい時間を共有しました。愛媛で頂いた優しさ温かさは、子ども達の心の成長にきっとプラスに影響すると思います。

朝の集いは、英語バージョンのラジオ体操で始まりました。そして、ストーンアート。昨日川で採取した石に絵を描きました。ラウンジでは、新鮮なみかんのジュース絞り機が登場して、実際に贅沢なジュースをいただきました。

その後で大洲市肱北公民館若宮分館に移動して、地元の子ども達と郷土料理を作りました。「芋炊き」と言う料理です。福島では「芋煮」ですね。とっても美味しかったです。子どもを代表して親書を読み上げたのは、T君・Mちゃんでした。立派に言えました。その後は地元のバンドの人たち4人がコンサートを開いてくれました。とても温かいコンサートでした。コンサートのラスト曲はAKB48の

「ヘビーローテーション」をみんなで踊って、大合唱で盛り上がりいました。

会の最後に、ぽんた委員長から挨拶をさせていただきました。「明日福島に戻ります。放射線でまた我慢の生活が待っています。でもここ愛媛で受けた楽しかった時間で、たくさんの元気を充電できました。ありが



とうございました。そして、この子ども達が大人になったときに、心ある社会を作ってくれると信じています。」という挨拶の後、ふくしまキッズの子ども達全員起立して、愛媛の皆さんにお礼を言いました。「ありがとうございました」・・・と。

<第十一日目 1月 6 日>

空港には、年末に関わってくれた学生も見送りに駆けつけてくれました。子ども達は大喜びでした。ここにもしっかりと絆が育っていることを感じました。涙、涙のお別れでした。でもこれは再開を約束する涙なのかもしれません。希望の涙、きらきらと輝いていた涙であったと思います。

松山空港を後にして、羽田空港から福島に戻り、ふくしまキッズ愛媛プログラムが終了しました。1件の事故や怪我もありませんでした。これは、現地の愛媛チームのスタッフががっちりした輪があったからこそです。そして、それを支えてくれる、学生ボランティアの真摯さがあったからだと感じています。

子ども達もしっかりと毎日のプログラムに取り組み、日に日に成長していくと感じています。子ども達は最後に作文を書きました、「また愛媛に来てたくさんの活動をしてみたい」と。愛媛プログラムは大成功だったといえます。子ども達の満足度は極めて高いです。子ども達の成長、そして関わってくれたすべての人たちのスキルアップ、ふくしまキッズの活動の可能性がまた広がったような気がします。

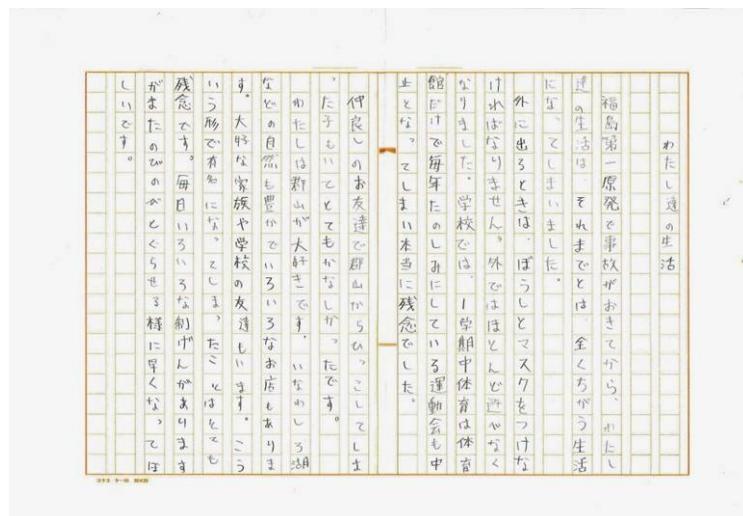


このプログラムに関わっていただいたすべての人に感謝しています。そして支援を寄せていただいた方々すべてに感謝申し上げます。



ふくしまキッズ冬プログラム親書

(ここには紙面の関係で一部のみ掲載いたしますので、その他はHPに掲載いたします)



私は、小学6年生です。
今年は「東日本大震災」があり、
私の家にも水がまわって、ドロ出いや、
がれきの処分など、とても大変でした。
私の家から少し遠くで、ひ寄り
大きさがすごく変わっていてびっくり
しました。いつもはひどいがモ
しかねないけど、和達はまだ大き
なほうでした。そして、11月は、
豪雨が、次々となく、ていくながら、
横浜に行けるといふ楽しみ
ができて、とってもうれしかったです。
ありがとうございます。

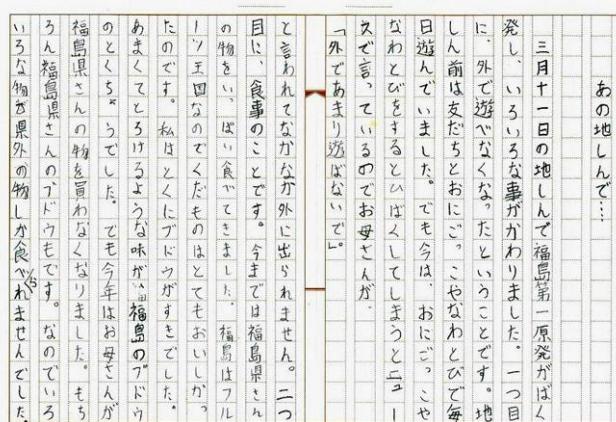
みんなのおかげで、ここまで
生きてこれたんだと感動します。私は1人
じゃなれど。と改めて感じました。
本当に本当に、「ありがとうございます」

福島の子ども達のために支援して下さり、本当にありがとうございました。
震災、原発事故の発生から9ヶ月以上が過ぎ、比較的
放射線量の高いいわき市では、表面土は普段の日常が
なります。しかし、心中には本当に大丈夫か?と
不安と不安ながら生活しています。新聞やテレビでは
毎時間ごとに各地の放射線量が報道され、県内の
ニュースは原発事故関係のことばかりです。他の地域の人には、震災や原発事故は確かに過去のことが流れ
ませんが、福島だけはまだ現在進行形です。

3月の第三直後は、日本中がひとつになり、支援しようと
団結力が高まましたが、放射線がからだと、福島の物産展
や炎の下で中止、ガム足の受け入れ拒否等、
僕らを悩ましいものありました。言葉では、「がんばろう!」等、
なんと言ても福島は他人事なんだよ、正直ひがんで
しまう気持ちになりました。

しかし、言葉だけではなく、本当に福島の人たちに行動して
くれている人は多いです。私達福島で生きています
者には、本当にうれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。
また、福島は見捨てられていないんだと勇気があります。
このプロジェクトに参加してくる団体や、支援金を送って
くれた人達が、こんなにいるんだと、ホームページを見ると
たびにうれしくて涙がでます。画面に向かって、「ありがとう、おかけで」と自然に声を出してしまうことがあります。

子どもは将来、進学や就職で福島と離れるかもしれません。
それが、今までと別々の人生を歩むことになります。



ふくしまキッズに参加した子どもたちからのお札状

(ここには紙面の関係で一部のみ掲載いたしますので、その他はHPに掲載いたします)

この、福島キッズに参加して、一番うれしかったのは、いっさい外で遊んだり、友達ができることです。バスの中では、友達ができるか心配でした。たけひでヨッシーとスタッフの人がいよいよ話してくれて、すごくうれしかったです。そのおかげで、友達がい、ぱいきました。福島では、できないうなごとも、横浜では、いよいよ来て、本当に楽しかったです。こうや、で楽しく遊べたのは、みんなりおかげです。大五郎の話を聞いて、いろんな人が支えてくれていることがよく分りました。地震で大変だったけど、みんなが支えてくれていることを知たら、自分もがんばらなくちゃいけないなと思いました。このプログラムに参加してよかったです。福島に帰ったら、みんなにいろんな人が支えてくれていることを教えたいくらいです。スタッフの人達と会えなくなるのは、すごく悲しいけど、このふくしまキッズにまた参加したいです。それに私達のために、がんばってくれた、スタッフの人などに感謝したいです。ありがとうございました。

樺原 真央

おのじちはる
ボーランティアのみなさんへ
北海上道にいたボランティアの人もい
たちはいいめであたボーランティアの人かいまし
ボランティアの人にかせわになりました。
ありかと二つ並んでいます。たまにうなぎ
ありかと二つ並んでいます。
支えんしてくれたからあります。
みがんありがと二つあります。

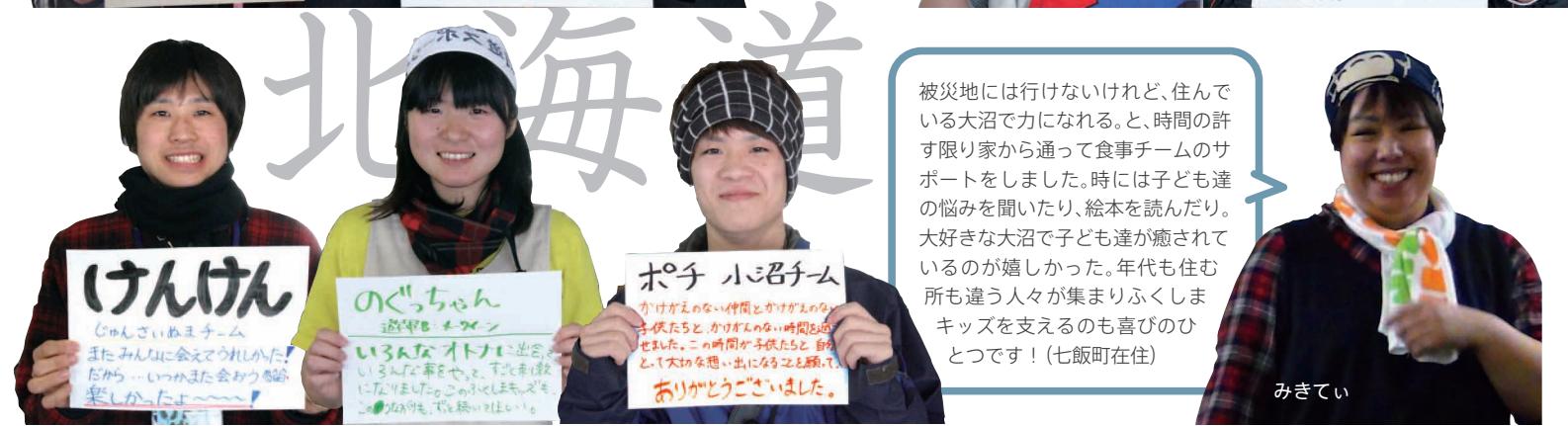
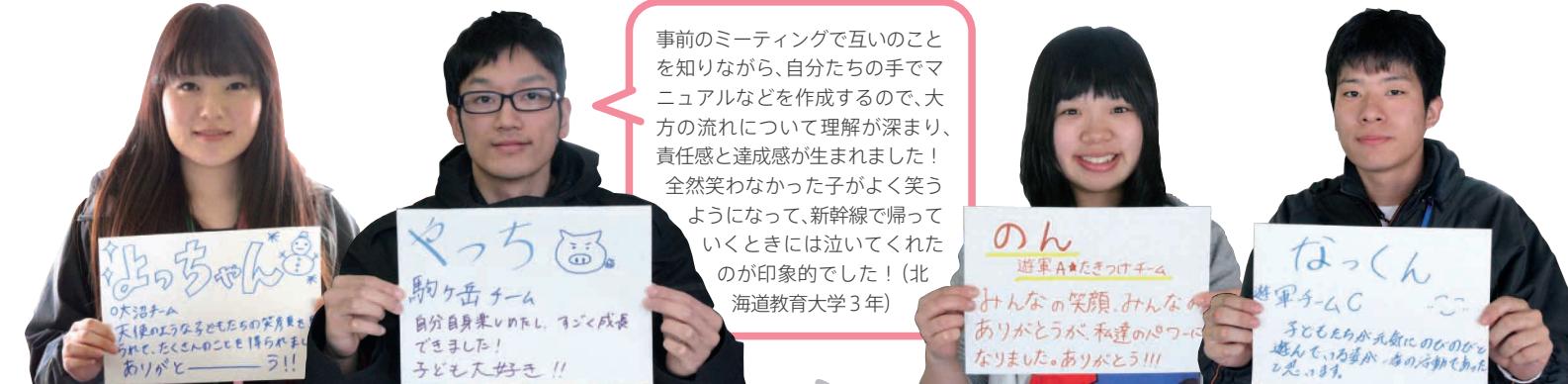
八

藤井平

つて、おみやげを買いました。その翌日に、ほんまに食
和ました。最初は、まだ火が少なくて、少し苦いのです
が、火が入りました。おもしろかったです。おみやげは、白い、高島の
シナリのフランガ、あしたの、それを買つて、それと
かつたての、よくは、結構かくろも買ひました。ひさすつ
らかうことね、いやなことばかり考えても、どうな
いって、が、あしたの、まだ見れない所で、食事なども、多
くありました。それで、学校や、せつを、仕合して
くれたり、引き合ってくれたりして、もしも、うれしか
ったです。今、何回も、書いて、えられた、ひさすつ
る、と、からかう、りとも、感動しました。まことに迷う
ところ、二つ、三つ、四つ、五つ、六つ、七つ、八つ、九つ、十
つ、です。この本が、うだつが、あるが、あるかも、しれぬ、いじれ
こゑがらせん、ふつて、くわい。

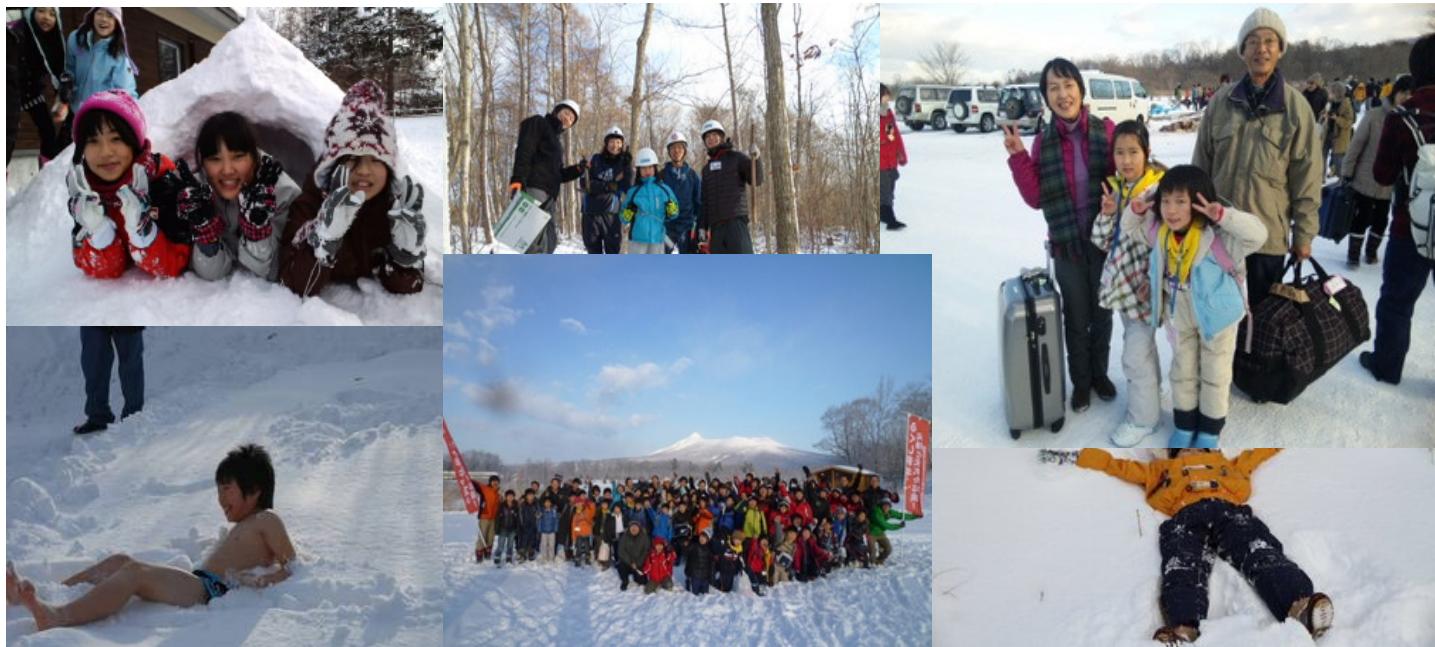
支えてくれた人達へ

ボランティアスタッフの声



冬プログラムのアルバム

北海道



横浜・三浦



愛媛



福島の子どもを守ろうプログラム

実行委員会

福島本部（福島現地担当）
〒963-8403 福島県東白川郡鮫川村大字赤坂東野字葉貫57番地
NPOあぶくまエヌエスネット内
TEL・FAX 0247-48-2508

実行委員会事務所（窓口業務担当）
〒232-0024 札幌市中央区北6条西25丁目3-35-210
子どもを守ろうプロジェクト協議会（SOCC）
NPO教育支援協会北海道内
TEL 011-643-3313 Fax 011-792-8834
<http://fukushima-kids.org> E-mail : info@fukushima-kids.org